

[経済同友会賞]

その資格で得たものは



東京都立総合工科高等学校(定時制) 総合技術科4年 大川 貴裕

中学時代、私は中学校に行かない、いわゆる不登校でした。勉強が嫌いで、宿題や課題がある日や面倒だと感じれば学校には行かない、そんな生活を過ごしていました。まわりが検定試験などを受けているのに対して、私は「自分がやっても受からないし、その為に勉強するなんて嫌だ」そう思っていました。「資格なんて頭が良くて、勉強が出来る、そんな奴が取るものだ」と。その時の自分は資格なんてものに見向きもしないで、ただだと日々を過ごしていました。そうやって怠けてきた私にも、進路を考える時期が訪れました。まわりが行きたい高校やそのための勉強など進路にむけて頑張ってるなか、私は何もせず、ただただ置いていかれるような感覚に焦りや劣等感を感じるだけでした。当然学校をサボってきたツケが重くのしかかり、まわりとの差が開いていくばかり、それでも自分で何かやろうと思いませんでした。「今から頑張ったってもう遅いし、頑張りたい目標だって自分にはない。」。私は自分の選択を放棄し、流れに身を任せました。欠席が多く、成績も良くない自分が行ける所は限られていて、担任の先生に今の定時制工業高校を勧められました。私は面倒だから学校説明会すら行かず、とりあえず受験しました。

工業なんてまったく興味がなく、勉強したいとも思いませんでした。それに定時制ということに私は大きな劣等感を感じていました。この高校に行っていることがまわりに知られることが恥ずか

しい。みんなが3年間で卒業するのに自分は4年間もかかり、一年も差が開くことが嫌でした。そんな私が、いまはこの工業高校定時制に入学したことを誇らしく思っています。

高1のときはまだ大きな変化はありませんでした。学校に行くのが面倒だったら、平気でサボってゲームをしていました。でも少しずつだが授業がわかるようになり、そこから学校を休むことも減少。成績も学年トップ。私は勉強が楽しくなっていました。そして先生から「何か資格を取ってみたいか?」と言われ、ガス溶接の資格を取得。その資格自体、取るのは簡単。しかし普通高校では取れない工業の資格。生まれて初めて取った資格に、私は大きな達成感を感じました。

2年生になって、私は電気コースに進みました。電気コースは「第二種電気工事士」という資格取得が目標。中学校の私だったら、きっとそれを聞いただけで選ばなかったでしょう。でも私は、もっとまわりがすごいと思う資格に挑戦しようと思いました。と同時に自分も変わろうとしました。まずは、今までやってこなかった色々な事にチャレンジするようになりました。毎日学校に休まず行くことや勉強、そして資格取得。それを目標に私は一生懸命に頑張りました。2年生では電気の基礎から学びます。最初はわからないまま授業が終わったり、理解が追いつかなかったりで、休んでしまおうと考えることもたびたびで、大変でした。電気という目で見えないもの相手に苦戦する

毎日。でも私は「絶対受かってみせる」と強く思いました。そして学校を休むことなく、2年生をやり遂げました。

3年生になってこれからが本番です。2年生で積み上げた土台の上に、私は第二種電気工事士合格を目指しました。最初はわからない事ばかり。見たことのない器具や工具、複雑な電気回路などまだまだやることばかりでした。授業はもちろん、夏休みも第二種にむけての対策講座に毎日出席しました。こんなに勉強したのは生まれて初めてでした。法規や器具を暗記し、ひたすら過去問を解き続けました。そして先生や友達に助けられながら、筆記試験を迎えました。試験当日、私は多少の緊張はありましたが、不安に感じることは全くありませんでした。「今までやってきたことを全力でやれば努力は報われる」と信じていたからです。そして筆記試験を無事突破し、すぐに実技試験に向けて行動しました。

実技試験は知識だけでなく慣れが必要。時間を見つけては毎日のように工具を握りました。最初は「の」の字作りから。絶縁被服を剥いて心線を5cm出し、その心線をクランク状にして、先っぽをペンチでつかんで「の」の字状に丸くする作業。この技術は器具に心線をネジ止めするときに使うもので第二種では必須。さらに複数回作らなければならない。だからこの作業は手早くできるようにならないといけません。しかも丸の大きさやうまく丸めないと重大欠陥になってしまうような重要な技術です。だから必ず練習のはじめに「の」の字の練習しました。実技試験当日、私はいつものように練習でやってること、頭と体に覚えさせたことを試験で存分に発揮することができました。そして結果は合格。第二種電気工事士合格という目標を成し遂げることができました。

あんな適当だった自分がここまで勉強し、このような資格を持つなんて想像もできませんでした。私がこれまで取った資格は、漢検3級、数検3級、情報技術検定2級、フォークリフト特別教

育、小型建設機械、アーク溶接、ガス溶接、玉掛け、小型移動式クレーン、第二種電気工事士、認定電気工事従事者。これらの取得してきた資格が積み重なって、私に大きな自信をつけてくれました。そして今は、第一種電気工事士と電気施工管理士の勉強をしています。そしてその二つに合格して、本校開設以来初の「ジュニアマイスターゴールド」を目標にしています。

私は資格取得を通して、たくさんの成長をすることができました。それはただ知識を増やしただけではなく、自信や考え方の変化ももたしてくれました。定時制ということで恥ずかしがったり、一年先に卒業していったまわりとの差や劣等感を感じることも、今の自分にはありません。なぜなら、それ以上にこの高校で得たものが大きいと私は感じるからです。自信は自分の目標に向かって突き進む強さや更なる努力につながってくれました。今はこの工業高校定時制にきたことを、私は胸を張って「良かった」と言えます。

今、自分は大学進学を目指しています。「この高校で挑戦できることは、やりきった。」と思っています。自分はほかにも学びたいと思うものがあります。それは工業でやってきたことが役に立たないかも知れませんが、私は高校でやってきたことが無駄とは思いません。「工業で得た知識、経験、資格が自信になり、心に余裕を生み出して、私に次の道を切り開いてくれた。」と思っているからです。だからその自信を糧に、私はこれからも成長していけると信じています。新たな目標に向かって、さらに前進していきたいと思っています。

